



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第81回調査>

2016年02月29日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2016年02月16日(火)13:00~2016年02月23日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。  
今回の有効回答数は971件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

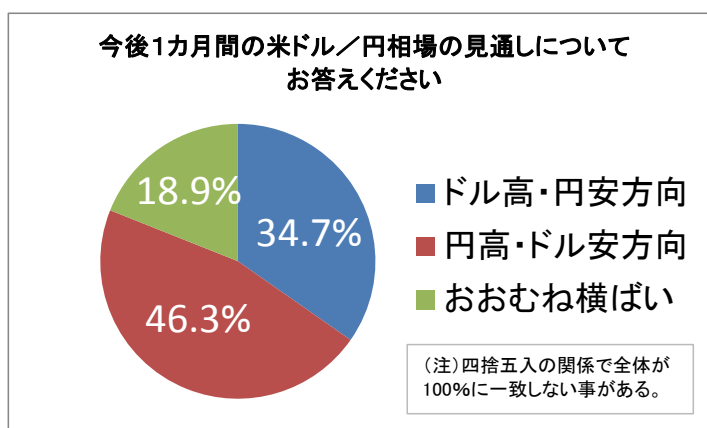
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第81回調査結果略報：米ドル/円、弱気継続も度合いは緩和】

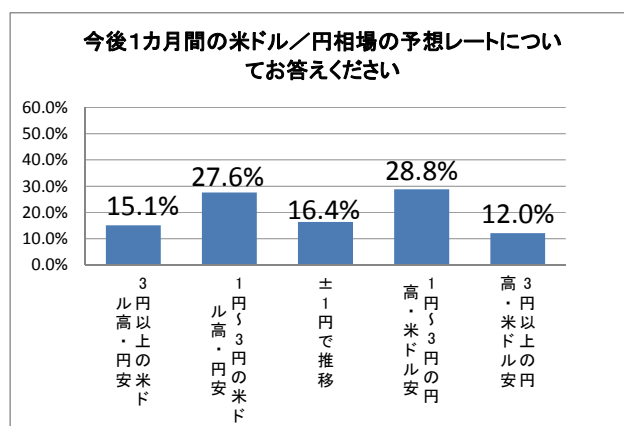
### 問1：今後1か月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が34.7%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は46.3%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は▼11.6%ポイントとなり、前回に続き米ドル弱気・円強気が優勢となった。ただ、弱気度合いを示すDIのマイナス幅は前回の▼24.2%ポイントから縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は、114.80円台を戻り高値にじりじりと上値を切り下げ、最終日には112円台を割り込む場面もあった。そうした弱含みの展開の中にあっても弱気度合いが強まらなかった点は注目に値しよう。前回調査時の116-118円台からさらに米ドル安・円高に振れた事で、下落に対する「達成感」が一部に浮上したためかもしれない。※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



### 問2：今後1か月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の円高・米ドル安」が28.8%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安」が27.6%、「±1円で推移」が16.4%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は15.1%、「3円以上の円高・米ドル安」は12.0%であった。ヒストグラムの形状はフラット化しており、投資家の見通しが米ドル高・円安と円高・米ドル安に大きく割れている様子が見て取れる。中でも、今回は両端の「3円以上の米ドル高・円安」と「3円以上の円高・米ドル安」の割合が高いのが特徴的だ。いずれの方向に動くにせよ、比較的大きな値幅を想定する投資家が増えた事になる。



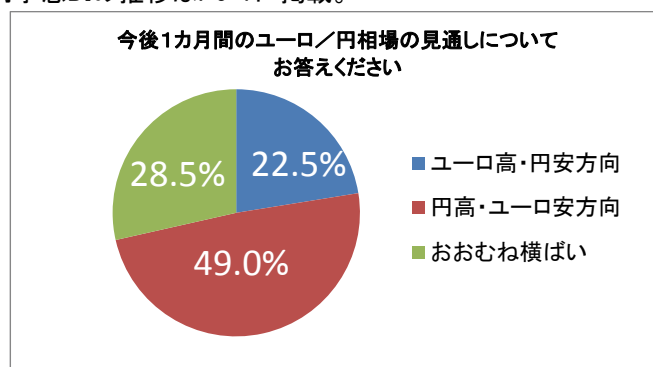
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が22.5%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が49.0%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼26.5%ポイントと、前回調査(▼33.4%ポイント)からマイナス幅は小幅に縮小したが、6か月連続のユーロ弱気見通しとなった。調査期間中のユーロ/円は、128円台から123円台へと大きく下落して最終日には約2年10か月ぶりの安値を付けるなど総じて軟調だった。米ドル/円よりも下落幅は大きかったが、ユーロの先安感に大きな変化はなかった事になる。ユーロ/円の下落に「達成感」を抱いた投資家は少なかったようだ。

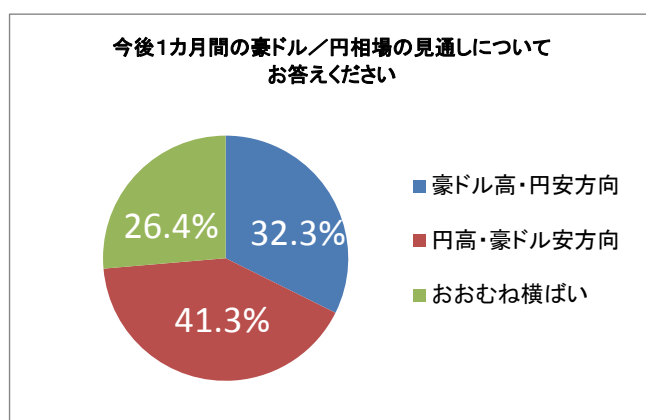
※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が32.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は41.3%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▼9.0%ポイントとなり、3か月連続で豪ドル弱気予想が優勢となった。それでも、予想DIのマイナス幅は前回(▼29.7%ポイント)から大きく縮小しており、弱気度合いは明確に緩和した。調査期間中の豪ドル/円相場は、一時80円の大台を割り込む場面もあったが、豪州の主要輸出品である鉄鉱石の価格が反発した事などから米ドル/円やユーロ/円に比べると下値は堅かった。そうした底堅さが弱気見通しの緩和に繋がったと考えられる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

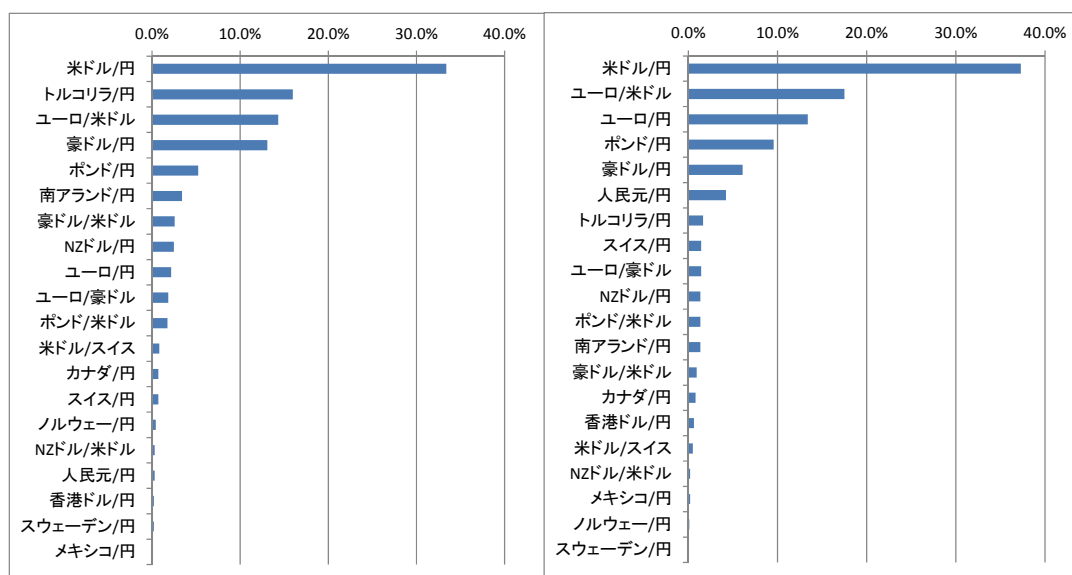


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が33.4%の回答割合を集めて第1位をキープした。以下、2位トルコリラ/円(16.0%)、3位ユーロ/米ドル(14.3%)、4位豪ドル/円(13.1%)、5位ポンド/円(5.3%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位米ドル/円(37.3%)、2位ユーロ/米ドル(17.5%)、3位ユーロ/円(13.4%)、4位ポンド/円(9.6%)、5位豪ドル/円(6.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が41カ月連続で1位をキープ。なお、米ドル/円は「売り」で注目の通貨ペアでも3カ月連続で1位の座を維持しており、その回答割合は今回初めて「買い」で注目の割合を上回った。投資家の間で相場見通しが分かると同時に、関心が米ドル/円に集中している様子が見て取れた。また、ユーロ/米ドルやユーロ/円でも「売り」で注目の割合が「買い」を上回ったが、トルコリラ/円や豪ドル/円では「買い」で注目する向きの割合が多く、この傾向は南アランド/円でも同様であった。「売り」を行えばスワップポイントがマイナスとなるケースが多い新興国通貨や資源国通貨は、本邦個人投資家にとってその対象にはなりにくいという事だろう。

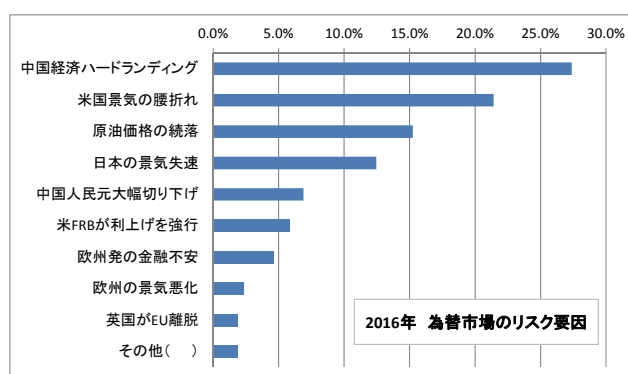


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

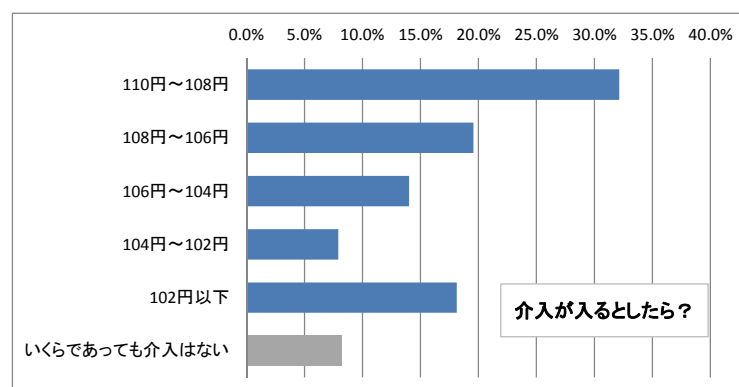
### 問6: 為替市場における2016年のリスク要因として、最も重大だと思われるものは何でしょうか？

今回の特別質問項目として、「為替市場における2016年のリスク要因として、最も重大だと思われるものは何でしょうか？」と尋ねたところ、「中国経済のハードランディング」を挙げる向きが27.4%と最も多く、次いで「米景気の腰折れ(21.4%)」と続いた。これに「中国人民元的大幅切り下げ(6.9%)」や「米FRBが利上げを強行(5.9%)」を加えれば、6割以上が世界トップ2の経済大国の景気悪化をリスク視している事になる。なお、「原油価格の続落(15.2%)」、「日本の景気失速(12.5%)」と、ここまでが10%以上の回答割合を集めた。一方で「英国がEU離脱」がわずか1.9%にとどまるなど、総じて欧州へのリスク警戒度合いが低い事もわかった。



### 問7: 日本政府・日銀が円売りドル買い介入を行うとしたら、次のうちの水準だと思われますか？

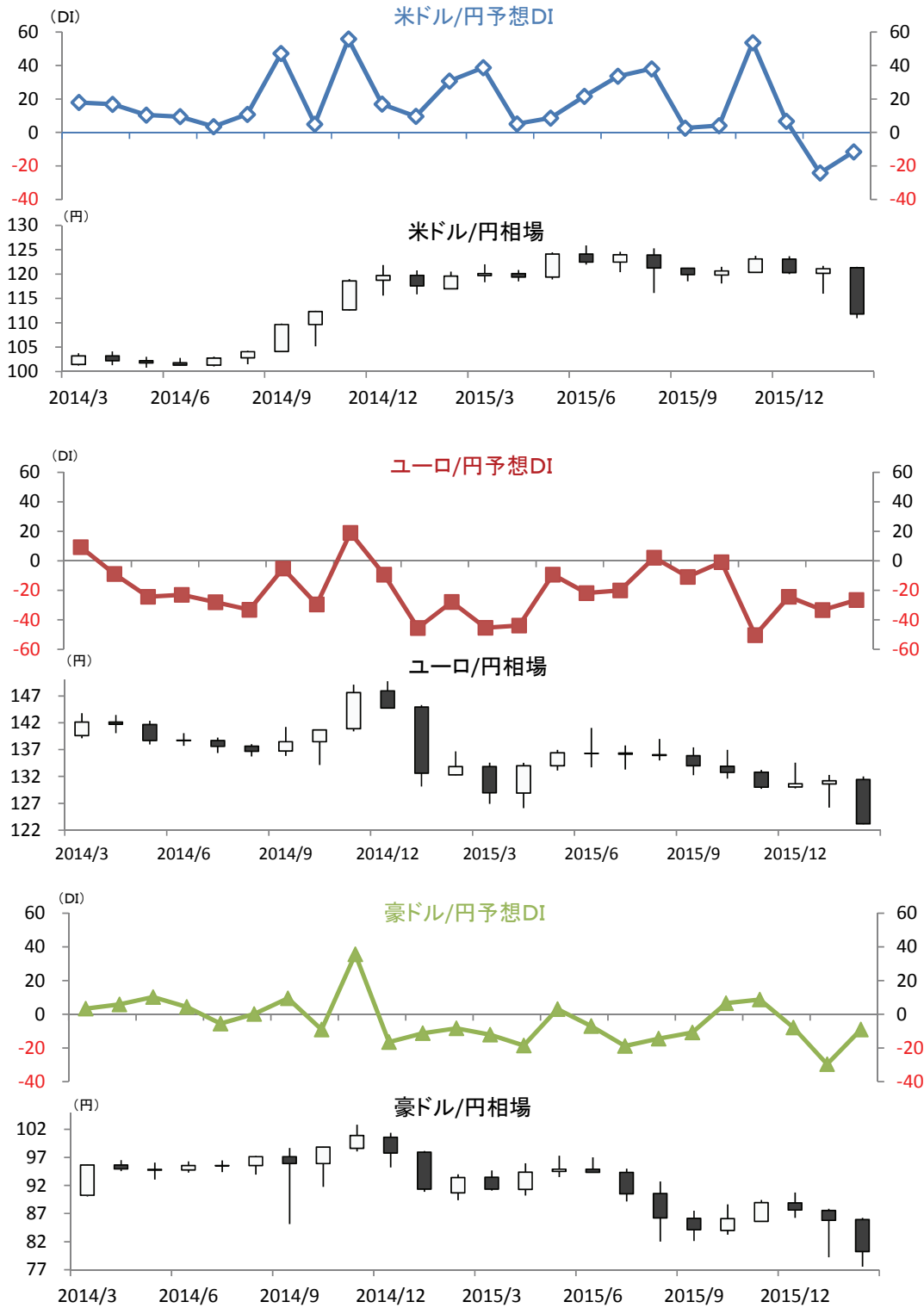
もうひとつの特別質問項目として「日本政府・日銀が円売りドル買い介入を行うとしたら、次のうちの水準だと思われますか？」と尋ねたところ、「110円～108円」が32.1%と最も多く、「108円～106円(19.6%)」、「102円以下(18.1%)」、「106円～104円(14.0%)」、「104円～102円(7.9%)」と続いた。なお、その理由を自由記述形式で尋ねたところ、「110円～108円」とした向きからは「既に111円台で行ったのではないか」との回答が多かった。「102円以下」とした向きからは、「100円以下は輸出企業への悪影響が大きい」との指摘があった。また、「いくらであっても介入しない」は8.2%にとどまった。なお、その理由としては「G7やG20の枠組みにおいて日本が為替介入するにはハードルが高すぎる」との回答があった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第81回目となりました。調査開始から6年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2014年	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3	
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9	
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2	
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4	
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6	
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1	
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5	
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0	
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6	
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5	
	2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
		2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
3月		52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1	
4月		31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5	
5月		29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1	
6月		43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0	
7月		49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9	
8月		51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4	
9月		37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8	
10月		30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6	
11月		67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8	
12月		43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9	
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7	
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com